

2022年5月16日

各 位

会社名 中小企業ホールディングス(株)
代表者名 代表取締役社長 岡本 武之
(コード番号 1757 東証スタンダード市場)
問合せ先 管理本部長 井上 博文
(Tel. 03-6825-7100)

営業外費用及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、第58期（2022年3月期）において、営業外費用及び特別損失を計上することと致しましたので、下記のとおりお知らせ致します。

1. 営業外費用の計上について

当社は、旧経営陣の下、2021年4月20日付けで連結子会社のクレア(株)の全株式を第三者に譲渡致しました。その際、当社がクレア(株)に対して有していた債権（2021年3月31日現在1,700百万円）につき、一部代物弁済（代物弁済額940百万円）を受けたとして処理しておりました。残りの債権760百万円は、クレア(株)の株式の譲渡先である第三者に対し、200百万円で債権譲渡を行っております。

その後、代物弁済を受けたとされたもののうち、堺市南美木多上の土地がクレア(株)により第三者に売却されていることが確認されたため、他の代物弁済の目的物等についても調査を進めたところ、矢代田駅周辺開発の共同事業に関連する金銭債権及びLEDディスプレイ等の固定資産についても代物弁済として価値を有していないと認められたことから、当社は、クレア(株)に対する未収債権の回収のため、クレア(株)に対し貸金返還請求を目的とした訴訟を本日（2022年5月16日）、東京地方裁判所に提起致しました。これに伴い、代物弁済に供された上記の3つの資産の合計額890百万円をクレア(株)に対する未収債権として戻し入れ、未収債権に対する貸倒引当金繰入額を営業外費用405百万円（890百万円との差額は、既に損失等の計上済み。）として計上致しました。

2. (個別)特別損失の計上について

2022年3月期の個別決算において、当社連結子会社の巧栄ビルド(株)について、当社の株式保有簿価に対し巧栄ビルド(株)の純資産が50%を下回ったため子会社株式評価損340百万円を特別損失として計上致しました。

なお、当該子会社株式評価損は、個別財務諸表のみに計上され連結決算では相殺されるため、連結業績に与える影響はございません。

3. (個別)営業外費用の計上について

2022年3月期の個別決算において、当社連結子会社の(株)JPマテリアル及びV BLOCK 販売(株)について、これら子会社の債務超過額に対する貸倒引当金繰入額として、(株)JPマテリアルに係る2百万円及びV BLOCK 販売(株)に係る9百万円を営業外費用として計上致しました。

なお、当該貸倒引当金繰入額は、個別財務諸表のみに計上され連結決算では相殺されるため、連結業績に与える影響はございません。

4. 業績に与える影響

本件につきましては、本日公表の「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映しております。

以上